

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-173165

(43)公開日 平成6年(1994)6月21日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
D 0 6 M 13/50				
A 6 1 L 9/01		8718-4C		
C 0 9 B 47/04		7306-4H		
		7199-3B		
			D 0 6 M 13/ 50	
			21/ 00	Z
			審査請求 未請求	請求項の数4(全 4 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平4-350923

(22)出願日 平成4年(1992)12月4日

(71)出願人 000148151

株式会社川島織物

京都府京都市左京区静海市原町265番地

(72)発明者 妹背 達治

京都市左京区静海市原町265番地 株式会

社川島織物内

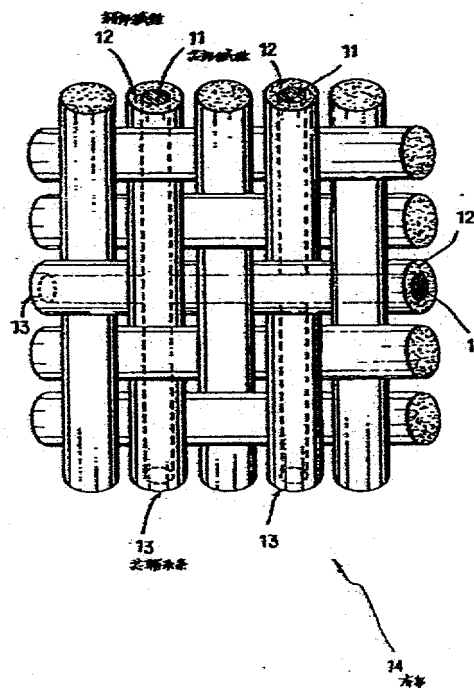
(74)代理人 弁理士 千葉 茂雄

(54)【発明の名称】 消臭性布帛と製造法

(57)【要約】

【目的】 外観色彩が消臭剤に左右されず、耐久性のある消臭性布帛を経済的に得る。

【構成】 芯鞘糸条13を有する布帛14に消臭剤を付与して消臭性布帛を製造する場合、芯鞘糸条13の芯部11と鞘部12を互いに染着能を異にする繊維によって構成し、消臭剤には芯部繊維11に対し染着性を有し鞘部繊維12に対し染着性を有しないものを用い、消臭剤を芯鞘糸条13の芯部繊維11にのみ染着させる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 芯糸条13を有する布帛14に消臭剤を付与して消臭性布帛を製造する場合において、芯糸条13の芯部11と鞘部12を互いに染着能を異にする繊維によって構成し、消臭剤には芯部繊維11に対し染着性を有するが鞘部繊維12に対しては染着性を有しないものを用い、消臭剤を芯糸条13の芯部繊維11にのみ染着させることを特徴とする消臭性布帛の製造法。

【請求項2】 前掲請求項1に記載の消臭剤が金属フタロシアニンであり、芯部繊維11が綿、レーヨンその他のセルロース系繊維であり、鞘部繊維12がナイロン、アクリル繊維、ポリエステル繊維その他の合成繊維であることを特徴とする前掲請求項1に記載の消臭性布帛の製造法。

【請求項3】 芯糸条13を有し、その芯部繊維11にのみ消臭剤が染着しており、その鞘部繊維12が消臭剤に対する染着能を有しないことを特徴とする消臭性布帛。

【請求項4】 前掲請求項2に記載の消臭剤が金属フタロシアニンであり、芯部繊維11が綿、レーヨンその他のセルロース系繊維であり、鞘部繊維12がナイロン、アクリル繊維、ポリエステル繊維その他の合成繊維であることを特徴とする前掲請求項2に記載の消臭性布帛。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、消臭性布帛に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の布帛の消臭加工用に市販されている金属フタロシアニン誘導体、水酸化銅イオン錯体、金属シアスコルビン酸錯体等の消臭剤は、染料の如く繊維に対する染着性を有し、繊維を一定の色に着色するので、多彩色でカーテンや壁張地に適した消臭性布帛は得難い（特公平3-10728・特開昭63-12723）。かかる消臭剤の欠点を解消する方法として、特公平3-36943（特開平2-298234）は、消臭剤に着色された繊維を芯部に用い消臭剤が付与されず消臭剤に着色されない繊維を鞘部に用いた芯糸条によって布帛を形成し、鞘部繊維によって消臭剤に着色された芯部繊維を被覆し、消臭剤特有の色彩が布帛表面に現れないようにする方法を提案している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記の提案によれば、多彩な消臭性布帛を得るには、その色彩に応じて染色した多くの鞘部繊維を用意し、需要に応じた色彩の芯糸条を紡績しなければならない。しかし、そのように原毛や原糸の段階で鞘部繊維を染色しておくことは、資材管理を煩雑にし、資材の在庫期間が長くなってコスト高になるし、製織・編後に生じる残糸は着色されたものであるが故に他の布帛へは転用し難く、同色の糸条であって

2

もロットの異なるものは僅かな色彩の違いによって布帛に色斑を生じるので、ロットの異なる残糸をまとめて使用することは現実問題として不可能であり、残糸は結局ロスになるので、その分だけ布帛がコスト高になる。一方、鞘部繊維を紡績の段階で染色せず、それを製織・編した布帛の段階で染色する場合、その芯部繊維に染着していた消臭剤が、鞘部繊維の染色の際に行われる高温加熱や洗浄処理時に芯部繊維から離脱し、又、高温加熱や洗浄処理によって消臭剤が芯部繊維から抜染されないとしても鞘部繊維へと移行して鞘部繊維の色彩を損なうなどの不都合が生じ、芯部繊維にのみ消臭剤を付与しておく意味がなくなる。本発明は、かかる不都合を解消し、製織または編成後の布帛の後加工において、糸条の鞘部に消臭剤を付与して布帛の色彩を変えることなく消臭加工することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、繊維に化学的に結合して着色する消臭剤の染着機能が、染料の染着機能と同様に全ての繊維に対するものではなく、繊維の種類によって染着しないという選択性を有し、従来染着機能を有するものとして公知の金属フタロシアニン誘導体、水酸化銅イオン錯体、金属シアスコルビン酸錯体等の消臭剤が、綿、レーヨンその他のセルロース系繊維に対し染着性を有するものの、ポリエステル繊維、ナイロン、ポリプロピレン繊維等の多くの合成繊維に対しては染着性を有しないことに着目して完成されたものである。

【0005】即ち、本発明は、芯糸条13を有する布帛14に消臭剤を付与して消臭性布帛を製造する場合において、芯糸条13の芯部11と鞘部12を互いに染着能を異にする繊維によって構成し、消臭剤には芯部繊維11に対し染着性を有し鞘部繊維12に対し染着性を有しないものを用い、消臭剤を芯糸条13の芯部繊維11にのみ染着させることを特徴とするものである。従って本発明に係る消臭性布帛14は、芯糸条13を有し、その芯部繊維11にのみ消臭剤が染着しており、その鞘部繊維12が消臭剤に対する染着能を有しないことを特徴とする。かかる消臭剤としては金属フタロシアニンを使用するとよく、芯部繊維11は綿、レーヨンその他のセルロース系繊維によって構成し、鞘部繊維12はナイロン、アクリル繊維、ポリエステル繊維その他の合成繊維によって構成することが適切である。

【0006】

【実施例】繊維2dのレーヨン繊維を芯部繊維11とし、繊維3dのポリエステル繊維を鞘部繊維12とし、芯部11と鞘部12のデニール比率が2対8であり、総デニールが900dである芯糸条13を緯糸に用い、繊維2dのポリエステル繊維に成る経デニール350dの糸条を経糸に用いて織成した織物14のポリエステル繊維を、常法に従って染色した後、金属フタロシアニン溶液に浸漬・絞液し、130℃にて3分間加熱処理して

消臭性ポリエステル繊維織物14を製造した。この織物14は、その芯糸条13の芯部繊維11だけが消臭剤によって緑青色に着色されており、鞘部繊維12は消臭剤に着色されておらず、消臭加工による織物14の色彩変化は認められなかった。次に、消臭加工前後の織物14につき、JIS-L-0842による耐光堅牢度とJIS-L-0844による洗濯堅牢度とJIS-L-0860によるドライクリーニング堅牢度を調べた結果何れの堅牢度も5級であった。

【0007】

【発明の効果】本発明に係る消臭性布帛14は、芯糸条13を有し、その芯部繊維11にのみ消臭剤が染着しており、鞘部繊維12が消臭剤に対する染着能を有しないので、芯部繊維11に染着した消臭剤によって鞘部繊維12が変色する虞は全くなく、消臭剤によって布帛全

体の色彩や染色堅牢度が損なわれることはない。そして消臭剤は、製布後の消臭加工によって芯糸条13に付与されるので、消臭加工前の芯糸条13や布帛14が、消臭剤の有無や色彩によって小ロット化することなく、それらの大ロット化によりコストダウンが図られる。かくして本発明によると、消臭剤によって外観色彩が左右されず、耐久性のある消臭性布帛を経済的に得ることが出来る。

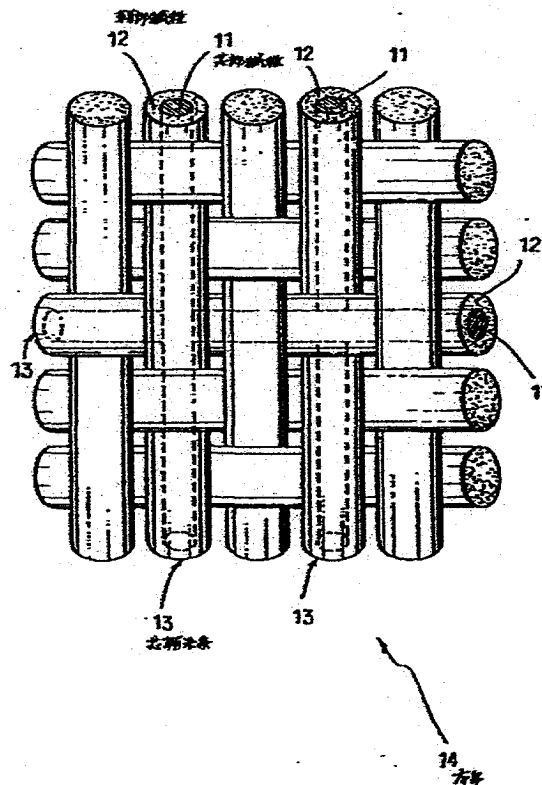
【図面の簡単な説明】

10 【図1】本発明に係る消臭性布帛の拡大表面図である。

【符号の説明】

- 11 芯部繊維
- 12 鞘部繊維
- 13 芯糸条
- 14 布帛（織物）

【図1】



フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁵

D01D 5/34

D01F 2/00

8/14

D03D 15/00

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

7199-3B

7199-3B

Z 7199-3B

E 7199-3B

(4)

特開平6-173165

// D06M 23/16

DERWENT-ACC-NO: 1994-239387

DERWENT-WEEK: 199429

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Cloth having deodorising effect -
comprises core-sheath
yarn and deodorising agent having
dyeing effect

PATENT-ASSIGNEE: KAWASHIMA ORIMONO KK[KAOR]

PRIORITY-DATA: 1992JP-0350923 (December 4, 1992)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	MAIN-IPC
JP 06173165 A		June 21, 1994	
004	D06M 013/50		N/A

*Sheath- undyed
core - dyed
w/ deodorizer.*

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
JP 06173165A	N/A	
1992JP-0350923	December 4, 1992	

INT-CL (IPC): A61L009/01, C09B047/04 , D01D005/34 ,
D01F002/00 ,
D01F008/14 , D03D015/00 , D06M013/50 , D06M023/16

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 06173165A

BASIC-ABSTRACT:

Cloth comprises a core-sheath yarn composed of a core part and a sheath part of fibres having different dyeing performances and deodorising agent which has dyeing effect to the core part fibres and has no dyeing effect to the sheath part fibres.

ADVANTAGE - Durable and good-appearance cloth having deodorising effect can be

provided.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/4

TITLE-TERMS: CLOTH DEODORISE EFFECT COMPRISE CORE SHEATH
YARN DEODORISE AGENT
DYE EFFECT

DERWENT-CLASS: D22 F06 P34

CPI-CODES: D09-B; D09-C04D; F01-E07; F03-C; F03-F33;

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1994-109698

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1994-188675

PAT-NO: JP406173165A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06173165 A
TITLE: DEODORIZING CLOTH AND ITS PRODUCTION
PUBN-DATE: June 21, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

IMOSE, TATSUJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

KAWASHIMA TEXTILE MANUF LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP04350923

APPL-DATE: December 4, 1992

INT-CL (IPC): D06M013/50, A61L009/01 , C09B047/04 ,
D01D005/34 , D01F002/00
 , D01F008/14 , D03D015/00 , D06M023/16

US-CL-CURRENT: 8/636

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a durable deodorizing cloth at a low cost keeping the appearance and color of the original cloth in spite of the use of a deodorizing agent.

CONSTITUTION: This deodorizing cloth is produced by applying a deodorizing agent to a cloth 14 containing core-sheath yarn 13. The core part 11 and the sheath part 12 of the core-sheath yarn 13 are composed of fibers having different dyeability. The deodorizing agent is dyeable to

the core fiber 11
and free from dyeability to the sheath fiber 12 and,
accordingly, the agent is
dyed exclusively to the core fiber 11 of the core-sheath
yarn 13.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio